

Rotary  国際ロータリー 第2790地区 第13グループ

# 5クラブ合同例会／インターシティミーティング

## シンポジウム『職業奉仕を語ろう』

### 【報告書】

#### 【第 1 部】5クラブ合同例会

松戸ロータリークラブ	第3181回
松戸東ロータリークラブ	第2524回
松戸北ロータリークラブ	第2381回
松戸中央ロータリークラブ	第1931回
松戸西ロータリークラブ	第1713回

#### 【第 2 部】インターシティミーティング

【シンポジウム】『職業奉仕を語ろう』



イマジン  
ロータリー

- ◆開催日：2023年1月17日(金)
- ◆開催場所：松戸商工会議所 大会議室(5F)  
および オンライン(Zoom)
- ◆出席者：130名(会場とオンライン合計)
- ◆ホストクラブ：松戸東ロータリークラブ

# 目 次

◆次 第	1
◆第13グループ5クラブ合同例会	2
来賓紹介	3
第13グループ 会長・幹事紹介	5
ホストクラブ会長挨拶	6
卓話 「職業奉仕を考える」	
国際ロータリー第2790地区	
2022-23年度 ガバナー 小倉 純夫 様	7
◆インターシティミーティング	18
ガバナー補佐挨拶	19
シンポジウム「職業奉仕を語ろう」	21
総評	32
直前ガバナー補佐挨拶	34
次期ガバナー補佐挨拶	35
次期ホストクラブ会長挨拶	36

# 次 第

## ～第13グループ 5クラブ合同例会～

		司会進行：松戸東RC幹事	高橋	淑元
12:30	点 鐘	松戸東RC会長	蔵本	一夫
		国歌斉唱・ロータリーソング斉唱		
		来賓・IMパネラー紹介	松戸東RC幹事	高橋 淑元
		ホストクラブ会長挨拶	松戸東RC会長	蔵本 一夫
		卓話		
		「職業奉仕を考える」	ガバナー	小倉 純夫
		ニコニコ発表	松戸東RC会場監督	大越 竜美
13:25	点 鐘	松戸東RC会長	蔵本	一夫

## ～インターシティミーティング～ シンポジウム『職業奉仕を語ろう』

		司会進行：ガバナー補佐幹事	谷口	貴光
13:40	開会	ガバナー補佐幹事	谷口	貴光
	主催者挨拶	ガバナー補佐	高橋	竜一
13:45	シンポジウム			
	テーマ「職業奉仕を語ろう」			
	○コーディネーター	ガバナー補佐	高橋	竜一
	○パネラー 地区職業奉仕委員会委員長（松戸東RC）		小野塚	雄
	○パネラー 地区ロータリー情報委員会委員長（市川東RC）		山下	清俊
	○パネラー 地区ロータリー情報委員会委員（習志野RC）		椎名	博信
14:55	総評	ガバナー	小倉	純夫
	直前ガバナー補佐へ記念品贈呈			
	直前ガバナー補佐挨拶	直前ガバナー補佐	織田	信幸
	次期ガバナー補佐挨拶	次期ガバナー補佐	鈴木	悦朗
	次期ホストクラブ会長挨拶	松戸北RC会長エレクト	小澤	直之
	諸事お知らせ			
15:20	閉会	ガバナー補佐幹事	谷口	貴光

2022-23年度 国際ロータリー第2790地区

# 第13グループ 5クラブ合同例会

- 松 戸 ロータリークラブ 第3181回例会
- 松 戸 東 ロータリークラブ 第2524回例会
- 松 戸 北 ロータリークラブ 第2381回例会
- 松戸中央ロータリークラブ 第1931回例会
- 松 戸 西 ロータリークラブ 第1713回例会

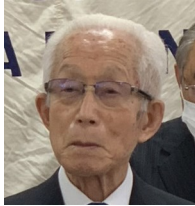


司会：高橋淑元 松戸東RC幹事

# 来賓紹介



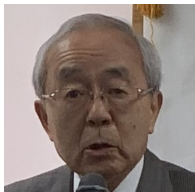
国際ロータリー第2790地区  
2022-23年度 ガバナー  
小倉 純夫 様（松戸RC）



国際ロータリー第2790地区  
パストガバナー  
土屋 亮平 様（松戸RC）



国際ロータリー第2790地区  
パストガバナー  
石井 亮太郎 様（松戸東RC）



国際ロータリー第2790地区  
2022-23年度  
地区研修リーダー・パストガバナー  
得居 仁 様（松戸東RC）



国際ロータリー第2790地区  
2022-23年度  
第13グループ ガバナー補佐  
高橋 竜一 様（松戸東RC）

## 来賓紹介



IMシンポジウム・パネラー  
国際ロータリー第2790地区  
2022-23年度  
ロータリー情報委員会 委員長  
山下 清俊 様（市川東RC）



IMシンポジウム・パネラー  
国際ロータリー第2790地区  
2022-23年度  
職業奉仕委員会 委員長  
小野塚 雄 様（松戸東RC）



IMシンポジウム・パネラー  
国際ロータリー第2790地区  
2022-23年度  
ロータリー情報委員会 委員  
椎名 博信 様（習志野RC）



国際ロータリー第2790地区  
2021-22年度  
第13グループ ガバナー補佐  
織田 信幸 様（松戸RC）



国際ロータリー第2790地区  
2023-24年度  
第13グループ ガバナー補佐予定者  
鈴木 悦朗 様（松戸北RC）

# 第13グループ会長・幹事紹介

(敬称略)

## ◎松戸ロータリークラブ



会長 湯本 高之



幹事 佐川 清

## ◎松戸東ロータリークラブ



会長 蔵本 一夫



幹事 高橋 淑元

## ◎松戸北ロータリークラブ



会長 大川 高明



幹事 大塚 精一

## ◎松戸中央ロータリークラブ

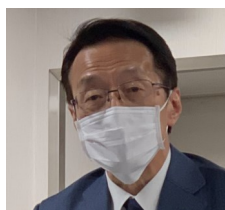


会長 浦 昭二郎



幹事 霞末 みち代

## ◎松戸西ロータリークラブ



会長 山本 沖



幹事 稲葉 のりひさ



# ホストクラブ会長挨拶



松戸東ロータリークラブ  
会長 蔵本 一夫

皆さま、こんにちは。

本日の5クラブ合同例会並びにインターシティミーティングの開催にあたり、ホストクラブ会長としてご挨拶させていただきます。松戸東RC蔵本一夫でございます。どうぞ宜しくお願い致します

はじめに、小倉ガバナーをはじめと致しますご来賓の皆様、本日はお忙しい所お越し頂き有難うございます。最後まで、宜しくお願い致します。

まずは、本日の合同例会・インターシティミーティングが5クラブの皆様と同じ会場で開催出来た事を大変嬉しく思います。会長幹事会で吟味しました結果、ZOOM併用での開催をする事となりましたが、本当に多くの会員の皆さまにご出席頂きまして有難うございます。

さて、本日の合同例会では、2016-17年度ガバナー補佐を歴任された小倉純夫様が、本日はガバナーとして職業奉仕をテーマに卓話をして頂きます。そして、インターシティミーティングでは各クラブの会長エレクトや代表の会員の皆さまから質問を出して貰い、パネラーの方から思いを伝えて頂く時間となります。是非とも、様々な気付きや思いを持ち帰って頂き、各クラブの皆さまと語り合う時間を持って頂ければ幸いです。

また、本日の設営につきましては、当クラブ高橋 竜一ガバナー補佐・谷口 貴光ガバナー補佐幹事を中心に、準備をして参りました。行き届かない点などあるかと存じますが、どうか、友情の心でお許し頂けると幸いです。

最後になりますが、グループ内各クラブが「元気なクラブ」であり続け、本日お越し頂きましたご来賓の皆さま、そして会員各位の今後のご健勝をご祈念し、短いですがホストクラブ会長挨拶とさせていただきます。最後まで、宜しくお願い申し上げます。



# 卓話「職業奉仕を考える」

## ～日本の職業奉仕論はガラパゴス化しているか～



国際ロータリー第2790地区  
2022-23年度  
ガバナー 小倉 純夫

皆さん、改めましてこんにちは。

昨年の12月に82クラブの公式訪問を全て終えまして、公式訪問ではクラブの活性化、元気なクラブ作りのための支援をするということで全クラブにお話をまいりました。

先ほど土屋パストガバナーから、少しくラブが活性化してきているのではないかという話を伺って少し、嬉しい気分しております。公式訪問を終え、年も明けて、私はこれから何をしようかなと思っていたのですが、クラブの活性化、元気なクラブづくりのために今後もお話、セミナー等を通じてクラブの活性化を図っていきたくて思っております。

今日は、職業奉仕について30分くらい卓話をして欲しいという事でしたが、私の考えている職業奉仕について十分話ができるかちょっと不安があったものですから、特に職業奉仕について私が考えている事をとうとうと卓話をするということではなくて、テーマを「日本の職業奉仕論はガラパゴス化しているか」ということで、なぜ日本のロータリーの職業奉仕と世界の職業奉仕の考え方に齟齬が生じているのかということを中心にお話をさせて頂こうと思っております。お手元に資料を皆さんにお配りをさせて頂きました。

ある人に言わせると、日本の職業奉仕の考え方は、世界から周回遅れだと言われているのですが、これは本田さんという方(本田博己:PDG,前橋RC)が2017年のロータリーの友に論文を書かれまして、私は本田さんに何度かお会いした時に、「日本の職業奉仕はそんなに遅れているのですか?」と聞いたら、「いやあれはちょっと誤解だよ。私の本意ではない。」というお話をされていました。本田さんの考えは後で申し述べますが、日本の職業奉仕を否定するわけではなくて、日本の職業奉仕論と世界の職業奉仕に対する考え方の意味合いが若干違っているので「奉仕の理念」ということを強調してそれを使っていこうという考えのようです。「ガラパゴス化している」とか「周回遅れ」とかの言葉を使った事でかなり誤解を受けて、本田さん自身が「もう職業論は聞かれても話をしないよ」とおっしゃっていました。

イマジン ロータリー 国際ロータリー第2790地区2022-23年度 Rotary District2790

**職業奉仕を考える**  
**～日本の職業奉仕論は**  
**ガラパゴス化しているか～**

2022-23年度 第2790地区ガバナー  
小倉 純夫 (松戸RC)

さて、短い時間ですので職業奉仕についてお話をさせていただきます。

まず「職業奉仕とは何ですか？」と聞かれたら「自分の職業を通じて社会に貢献することだ、社会に奉仕することだ」と一般的には説明されます。ただその具体的に職業奉仕とはどんなことをするのかということになるとかなり難しいわけです。職業奉仕、特に入会して間もない方について、職業奉仕はなぜ分かりにくいのかということですが、まず一つは職業奉仕の意味の問題、定義の問題です。他の奉仕、例えば、クラブ奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕はいずれも「～に対する」奉仕ということで対象が明確であります。これに対して職業奉仕は、職業に対する奉仕ではありません。ですからその意味する事もなかなかわかりにくいというのが一つ。

それから職業奉仕をどうやって実践するのかという問題です。

具体的な方法に関する問題は、実はそれぞれの職業が全部違いますので、それによる職業倫理の基準や実践は様々です。具体的にはそれぞれの職業において、これが職業奉仕としてふさわしいものかどうか、そういう具体的な事例を挙げて研究していく、これしかないのだらうと思います。

そういう意味で職業奉仕は、なかなか理解しにくいとされているところです。

お配りした資料を見てください。これは、毎月配布される「ロータリーの友」の6ページにいつもある記事です。「ロータリーの目的は、意義ある事業を基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある」と書かれておりますが、これがロータリーの目的であります。そして、その第1、第2、第3、第4と書かれている所は、いずれもそれを補足するための説明だと考えられます。これは後で言いますが、以前はObjectsと複数形だったのをObjectと一つの目的ということで一つにしました。あくまで意義ある事業の基礎として、奉仕の理念を奨励しこれを育むことです。日本ではこれがまさに職業奉仕で、この職業奉仕の推進こそがロータリーの目的であり、これを推進していくべきだという考え方です。

## 職業奉仕とは

### 自分の職業を通じて 社会に貢献すること

#### 職業奉仕がなぜわかりにくいのか

##### ①職業奉仕の意味の問題

⇒他の奉仕はいずれも「～に対するもので、対象が明確」  
しかし職業奉仕は職業に対する奉仕ではない

##### ②どう実践するかという具体的方法に関する問題

⇒それぞれの職業により倫理の基準、実践は様々である  
⇒具体的な事例研究によるしかない

このことで、実は、一つは英語の解釈の問題もあるのだらうと思います。

The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster:

このEnterpriseを職業と考えています。これが日本での伝統的な考えで、要するに職業のあらゆる面で職業奉仕の理念を適用していきましょうというのが、ロータリーの目的なのんだという考えで、これは、従来日本のずっと古くからの伝統的な職業奉仕論です。

このEnterpriseの解釈が若干世界では違っているのかなと思っています。

世界では、RIではどうかと言いますと、去年の1月の国際協議会では「職業奉仕」という言葉は一言も出てきませんでした。そして、去年の12月にもロータリー研究会が神戸であり、RI会長のジェニファー・ジョーンズさんが来日されたのですが、その時もお話の中には「職業奉仕」が一度も出てきませんでした。今では世界（RI）の考え方、世界の標準では職業奉仕は5大奉仕の一部門のようです。

後で述べます通り、我々日本の職業奉仕論では、あくまで職業奉仕というのは個人の問題であり、個人が自分の職業を通じて社会に貢献するという考え方だったのですが、今やクラブで決めた職業奉仕の考えを実践していくこと、ロータリアン個人とクラブの職業奉仕の実践があるのだという考え方が、今や世界では主流になっています。

実は私はRLI（Rotary Leadership Institute）に挨拶のために先週出席したのですが、その時にたまたま研修で職業奉仕についてやっていたのを傍聴しておりました。

RLIでのその時の話では、職業倫理と職業奉仕というのを明確に分けており、そういう指導でした。

資料としてお配りした中に、「職業奉仕のアイディア」を一番に最後につけておきました。これは、RLIの教科書に載っているものです。RLIに参加した時に皆さんが「具体的に職業奉仕はどんなことをクラブでやっていますか？」ということ聞かれてもなかなか答えが出てこなかったのです。

ロータリーの目的（RI定款,クラブ定款）  
「意義ある事業の基礎として  
奉仕の理念を奨励し、これを育むこと」

→日本では職業奉仕の推進こそ  
ロータリーの目的と考えてきた。  
他の4項目は、その目的達成のための付随的、  
補足的説明

世界では（RI）  
職業奉仕は5大奉仕  
（クラブ定款のみに記載）  
部門の一つと考えられている



確か松戸東クラブさんは、出前教室をやっておられましたでしょうか。クラブの出前教室なんかも職業奉仕の一つであり、職場訪問とか、クラブで決められ職業奉仕、これをクラブで実践していく、これも職業奉仕の実践の一つです。

ここに書いてある「職業奉仕のアイディア」というのは、さっき言ったRLIが、つまりRIが、これが職業奉仕のアイディアですよということを一つの資料として示したものです。これは一つの参考としてお出ししました。後で見えておいて頂ければ幸いです。

世界では、日本の職業奉仕論についてはあくまで職業倫理運動だという考えをとられています。この辺が日本と世界の職業奉仕に対する考え方の違いになっていると私は思っています。

先程来申し上げている通り、事業の基礎としての奉仕の理念は、「The Ideal of Service」これは他人を思いやり、他人の助けになることをすることです。

30年間初期のRIの事務総長を務めたチェスリー・ペリーという方の奉仕に対する考え方、これがロータリーでは一般的に奉仕の理念を説明する言葉として正式の載っている言葉だろうと思います。「他人を思いやり他人の助けになることをする」これが奉仕の理念の一つの考え方です。

お手元にお配りした「ロータリー友」の6ページに書いてある通り、「ロータリーは職業倫理を重んずる実業人、専門職人の集まりだ」そういう考え方です。

これが、必ずしも職業を持ってない人の入会を認めるという形になっておりますので、そこの間の齟齬というか、それを説明するためのテクニックとして職業奉仕をあまり強調するのはどうかという風に考えているのではないかと私は思っています。

例会でこれは親睦により切磋琢磨してお互いの人格を磨き合い、職業倫理の向上を図っていく。人間としての成長、それが信用に結びつき安定した経営、そしてそれが奉仕の実践につながるという形で職業奉仕、つまり「奉仕と親睦」これは車の両輪です。親睦なくして奉仕なし、奉仕をしなくして親睦無し、こういうことで昔から「入りて学び、出でて奉仕せよ」「Enter to learn, Go forth to serve」、松戸クラブの例会場も、東クラブ、中央クラブさんも、その入り口にこれを掲げてあります。

要するに例会を大事にして、親睦、そしてそこで養ったそういう気持ち精神を職業奉仕に活かしていく、これがロータリーなのだという考え方です。

## 奉仕の理念 (The Ideal of Service) の意味

→他人を思いやり、他人の助けになることをすること  
(チェス・ペリーの言葉)



後で申し述べますが、アーサー・フレデリック・シェルドンという方が、1908年にシカゴロータリーに入会されました。彼は今までの仲間同士の互惠取引から奉仕の理念による取引へと考え方を転換させる一つのきっかけになった方です。He profits most who services best. という標語を掲げて、これが国際大会で採用されました。

単純にお互いの仲間同士の取引だけではなく、継続的な事業の発展を図るためには自分の儲けを優先するのではなく、自分の職業を通じて社会に貢献することを意図して事業を営むこと、そして利益を独占するのではなく、従業員や取引関係者に再分配をすることが継続的取引を得る方法であるということです。

一時的なボロ儲けをするよりは継続的な取引関係を維持して信用を得ていく、そういう考え方です。これは、まさ

に日本の古くからある近江商人の「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）の考え方です。

私は思うのですが、日本のそういう考え方、商業道德の方がずっと進んでいて、アメリカより多分100年以上前にこの考え方を日本では商業道德として使っていた。そういう意味では、アメリカの考え、このシェルドンが初めてこれを唱えた時、実はシカゴの街ではこんな考え方を取るのはあまりも先進的でこの考え方には大反対の方も相当いたようです。3代目の会長になったそのポールハリスも、シェルドンを情報委員長にしたということで辞めさせられて、会長を退任させられたということが伝わっております。それほど当時のアメリカ、シカゴの街ではこういう考え方は非常に先進的であったということだそうです。ところが、日本ではこの考え方が近江商人の「三方よし」の考え方で、これは日本の古くからある伝統的な商業道德であります。

ここでロータリーの歴史を振り返ってみますと、1905年にポールハリスポールハリスが仲間3人とシカゴRCを創立しました。お配りした資料に「ロータリーとは」という中に出てはいますが、当時のシカゴの街は大変商業道德が荒廃していました。そこで、なんとか親睦とお互いの利益、相互扶助を得ようということから、ポールハリスが仲間3人で親睦と相互扶助を目的として設立しました。

ロータリーとは  
「職業、倫理を重んずる実業人、  
 専門職業人の集り」

例会で親睦により切磋琢磨し、職業倫理の向上を図る⇒人間としての成長＝信用⇒安定した経営⇒奉仕の実践

→入りて学び、出でて奉仕せよ  
 「Enter to learn, Go forth to serve」

シェルドンのサービスの哲学

He profits most who service best

→互惠取引から奉仕の理念による取引へ

① 継続的な事業の発展を図るためには、自分の儲けを優先するのではなく、自分の職業を通じて社会に貢献することを意図して事業を営むこと

② 利益を独占するのではなく、従業員や取引関係者に再分配をすることが継続的取引を得る方法である  
 →日本の近江商人の「三方よし」の考え方



当然そうすると1業種1会員制を厳しく守っていくというのが大原則だったわけです。次の年にドナルドカーターという弁理士さんにシカゴロータリークラブへの入会を進めたところ、自分たちだけの利益を追求していくそういうクラブ・団体に発展性がないということで入会を拒否されました。それを聞いてポールハリスは、新たに定款に「地域社会への貢献」を加えました。そしてシカゴの街に公衆便所の設置を計画しました。ここで初めて社会にする貢献という言葉でロータリーにそういう考えを導きました。

さらに先ほど申し上げたアーサー・フレデリック・シェルドンが1908年に入会して奉仕論を展開しました。そして1911年には、「最もよく奉仕する者最も多く報いられる」このシェルドンの言葉が国際大会で採用されました。そして

同じ大会でコリンズという人が「Service Not Self」という言葉を披露しました。これは要するに「自分を私的な気持ち、利益を得たいとかそういうものを一切なくして奉仕しましょう」という考えなのですが、これはあまりにも厳しすぎるということで1921年には「超我の奉仕(Service Above Self)」になったと聞いております。

そして1915年には、ロータリーの倫理訓が出されます。これも資料としてお配りをさせていただきました。「全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓」、1915年サンフランシスコにおける第6回ロータリークラブ国際連合会年次大会にいて採用されたものです。これは非常に素晴らしい内容なのですが、あまりにも教条的であり、キリスト教的な表現が入り過ぎているので一般にこれを広めていくのは難しいのではないかとということでこれはなかなか広まらなかったようです。

後で時間があればこれをぜひ読んでください。内容的には素晴らしいもので、まさにロータリーの道徳律と言われるものです。

今申し上げた1915年に職業基準が確立されました。そしてご承知の通り1923年に「社会奉仕に関する1923年の声明」が採用されました。

これも資料にあります。

## ロータリーの職業奉仕に関する歴史を振り返る



- 1905年 ポールハリスが仲間3人とシカゴRCを創立  
「親睦と相互扶助」から出発  
⇒一業種一会員制
- 1906年 ドナルドカーターにロータリーへの入会を拒否される
- 1907年 ポールハリス、定款に「地域社会への貢献」を加える  
⇒シカゴの街に公衆便所を設置

## ロータリーの職業奉仕に関する歴史を振り返る

- 1908年 アーサーシェルドンが入会し、奉仕論を展開
- 1911年 「最もよく奉仕する者最も多く報いられる」  
(シェルドンの言葉)
- 1915年 ロータリーの倫理訓(道徳律を裁決)  
⇒職業基準の確立
- 1921年 「超我の奉仕(Service Above Self)」  
(コリンズの無私の奉仕から)



『ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。』

要するに「超我の奉仕」という考え方と「最もよく奉仕する者最も多く報いられる」という2つの標語・テーマがロータリーの職業奉仕を端的に表すものだというふうに理解されるところです。

「超我の奉仕」というのはなかなか難しいですね。自分を超える、我を超え、とはどういうことかと言うと、米山梅吉さんも「サービス第一、自己第二」と説明した。要するに第一に奉仕を考えましょう、そして次に自分を考えましょうという考えです。

ところが1948年にはだんだん変わってきて、RIに職業奉仕委員会があったのですが、これが廃止されます。その後、復活はするのですが職業奉仕に対する考え方が色々変わってきて、1911年に作成されたロータリーの綱領（objects of rotary）、先ほど言いました複数形から、object of rotaryへ改正

され、2012年には「ロータリーの綱領」から「ロータリーの目的」に翻訳が変更になりました。

1987年に職業奉仕に関する声明が出ましたが、実はこの時にもうすでに職業奉仕に関するRIの考え方はかなり変わってきています。この時にはすでに職業奉仕はクラブとロータリアンの両方の責務だという考え方が既に取られていました。

ロータリーの職業宣言が1989年、それからさらに2011年にはロータリーの行動規範ができましたが、これも資料に載せておきましたので後で読んでいただければと思います。これはロータリーの職業宣言を変更したというように言われております。

そして2016年にクラブ定款の5大奉仕部門にクラブの責務をはっきりと明記しました。お渡しした資料の一番上のロータリークラブの定款第6条の5大奉仕部門の線を引いた所です。

## ロータリーの職業奉仕に関する歴史を振り返る

- 1923年 決議1923-34号  
「社会奉仕に関する1923年の声明」
- 1927年 4大奉仕確立（奉仕の4分類）  
⇒クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕
- 1943年 4つのテスト（ハーバート・テイラーの提唱する「4つのテスト」を採用）

## ロータリーの職業奉仕に関する歴史を振り返る

- 1948年 RI職業奉仕委員会廃止  
⇒1987年に復活
- 1951年 ロータリーの綱領が改正され、  
objects of rotaryからobject of rotaryへ  
（日本では、2012年に「ロータリーの目的」と翻訳を変更）

## ロータリーの職業奉仕に関する歴史を振り返る

- 1987年 職業奉仕に関する声明  
（職業奉仕概念の変更）
- 1989年 ロータリアンの職業宣言
- 2011年 ロータリーの行動規範  
（ロータリーの職業宣言を変更したもの）
- 2016年 クラブ定款の5大奉仕部門に  
クラブの責務を追記



「奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を实践していくという目的を持つものである。

会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。」

これは、クラブの職業奉仕の考え方で、これをやっていくのだということでした。5大奉仕部門の中にクラブの責務が入ったのです。実は25年ぐらい前の話ですが、私がロータリーに入って間もない頃に職業奉仕委員会委員長を仰せつかったときに、クラブでどうやって職業奉仕を实践していくのか私はよく分からなくて悩んだことがあります。

ある時にあるパストガバナーに伺ったことがあるのですが、その説明を聞いても当時はよく理解できませんでした。後で実はわかったのですが、クラブでの職業奉仕がもうすでに1987年の「職業奉仕に関する声明」の中に、職業奉仕はクラブの責務でもあるという考え方がすでに入ってきていて、2016年に初めてこれを定款の中に明記したという流れです。もうすでに随分前から世界的には職業奉仕というのは、あくまで5大奉仕部門の一つだよというのが世界的な流れになっていたということです。

RIの職業奉仕の定義というのはこうなっています。5大奉仕部門の1つとしての職業奉仕です。

先ほどのロータリー標準定款第6条に5大奉仕部門ということが出ていまして、職業奉仕は、自分の職業のスキルを活かした奉仕をすることだということです。

クラブで決めた職業奉仕のプログラムを实践することも職業奉仕の一つだと書いてあります。先ほども言いましたが、例えばクラブで職業についての出前教室や職場訪問もクラブで決めた職業奉仕ということであれば、それを实践するというのも職業奉仕の一つですよという考え方です。

世界では、日本の職業奉仕は職業倫理論だと言われています。

### RIの職業奉仕の定義

- ・ 5大奉仕部門の1つとしての職業奉仕
- ・ 自分の職業のスキルを活かした奉仕をすること
- ・ クラブで決めた職業奉仕のプログラムを实践することも職業奉仕の一環の一つ
- ・ 日本の職業奉仕は職業倫理論

### なぜ日本と世界の職業奉仕に対する認識は違ってしまったのか

- ・ 1970年代～80年代にRIの変化
- ・ 1978年 3H（保健・飢餓追放・人間性尊重）補助金プログラム創設  
（大規模な人道的取り組みが可能となる）
- ・ 1985年 ポリオプラスプログラム創設

先ほどRIでもこれはRIの考え方をそのまま適用している考えですから、まさに職業倫理と職業奉仕というテーマで色々レクチャーがありました。世界ではそういう考え方でやっています。

なぜ日本と世界の職業奉仕に対する認識は違ってしまったのかということを見ると、一つは1970年代80年代にRIの変化が非常に激しい変化があったからではないかと思います。

1978年に3H（保健・飢餓追放・人間性尊重）に対する補助金プログラムを創設して、大規模な人道的取り組みが可能となるプログラムを作り、ロータリーは人道的な奉仕を目指す、こういうことを明らかにしたのです。ご承知の通り1985年にはポリオプラス・プログラムを創設し、この頃からロータリーは世界的に最大の人道的奉仕団体を目指すことになってきています。そうするとそのために必要なことは、やはり会員増強し

なければならない。できるだけ人頭分担金を増額し、財団への寄付額を増大させなければならない。そうすると1業種1会員制というのは邪魔になります。

どんどん色々な人の職業が入ってきて、2001年に1業種5人制になりましたが、それでもだめだということで、2013年には会員資格を緩和して、職業のない人の入会を認めました。さらに組織の柔軟性については、世界的に日本、アメリカ辺りの会員が急激に減少しているために組織を柔軟にしなければならないということで、クラブの例回数を月2回にするとか、出席のメーキャップを1年以内にすればいいなど、そういう組織の柔軟性を打ち出して会員増強の歯止めをしようということ考えたのだと思います。

私は、基本的にはこの世界一の人道的な奉仕団体を目指すということで会員増強を図ると言うために、1業種1会員制など職業奉仕を言っていると会員が増強できないという事なのかなと思っております。

これは、本田さんが言われていることですが、「日本では、職業の理念を職業への適用や自分の職業観を語っているが世界では奉仕部門の一つとしての職業奉仕の活動を語っている」

だからそこで日本でいう職業奉仕と世界で、RIで、言っている、あるいは他の世界で言っている職業奉仕の考え方に齟齬が出てしまっているということです。

## RIは世界一の人道奉仕団体を目指す

～そのために必要なこと～

### ・会員増強

（人頭分担金の増額、寄付額の増大）

⇒そのために、一業種一人制を撤廃（2001年）

### ・会員資格の緩和

⇒職業のない人の入会を認める（2013年）

### ・組織の柔軟性

⇒クラブの例会、出席の柔軟性(2016年,2019年)

## なぜ日本と世界の職業奉仕に対する認識は違ってしまったのか

日本では、職業の理念を職業への適用や自分の職業観を語っているが  
世界では奉仕部門の一つとしての職業奉仕の活動を語っている

まとめですが、日本のロータリーは、私は職業倫理向上のための運動だと考えており、そのための哲学でもあると思います。

私はロータリー自身が職業倫理向上運動だと思いますし、だから、日本の職業奉仕というのは、その意味でまさにその考えをもっと広めて、それを広めるためには自分の人格を向上させると同時に、そういう仲間をどんどん増やしてい

くことが職業奉仕の一つの要請でもある。そういうことで、私は日本の職業奉仕の考え方、これは素晴らしい考えでむしろこれを世界にもっと広げていく、発信していくべきではないかというふうに考えています。

ただ、世界では、先程来申し上げている通り、職業奉仕という言葉ではなく、「奉仕の理念」とその実践とした方が理解されやすいのではないかと。これは本田さんが「職業奉仕から奉仕の理念へ」という論文の中で書かれています。日本でのこの職業奉仕論は、世界では通用しない、だから「奉仕の理念」という言葉で職業奉仕論を語るのがいいのではないかとっています。

先ほど申し上げたとおり、本田さんも決して日本の職業奉仕論を否定しているわけではなくて、もう少しその世界に通用するものとして考えていこうという一つの提案です。

そろそろ終わりにしますが、私も職業奉仕は、なかなか難しいし、聞いていてもなかなか理解されないのではないかと思います。

ただ、私が今日お話ししていることは、日本の職業奉仕という考え方と世界の職業奉仕の考え方には、相当開きがある。私は、これは、むしろ世界のロータリーがどこへ行ってしまおうのだろうと思っています。国際奉仕では、まあウクライナは支援するわ、ポリオ根絶だと言っては寄付して、もうエンドレスでキリがない。我々はもうどうしたらいいのか、どんどん寄付しようということで、これは正直言ってロータリーは本当にどこへ行ってしまおうのだろうと思っています。

## まとめ

◆日本のロータリーは、職業倫理向上のための運動であり、哲学  
⇒世界に日本の職業奉仕の理念の素晴らしさを発信しよう！

◆ただ、世界では職業奉仕という言葉ではなく、「奉仕の理念」とその実践とした方が理解される（本田博己「職業奉仕から奉仕の理念へ」）

日本のロータリーは、やはりあくまで個人の職業の倫理観、そういう人格の向上を目指す、これは先程来申し上げている通り、例会の充実、親睦、こういうものは車の両輪だと思うわけです。親睦がなければ職業奉仕もない、そういうふうに私は思っています。

それで日本の職業奉仕論というのは、実は世界から比べるとずっと進んでいる。さっき私が江戸時代の「三方よし」の方を申し上げましたけども日本の職業奉

仕の考え方は世界より100年以上進んでいるのです。日本の職業奉仕の考え方をもっと世界に広めていく、そして、この日本の職業奉仕の考え方が、世界標準になることを我々は目指すべきだと思っています。そのためには、語学的な問題もあるし、なかなか難しいところではありますけど、日本の職業奉仕論の素晴らしさをもっと広めていくべきではないかと思っています。私自身は、5大奉仕の一つの部門として職業奉仕を考えるのはどうかと思います。私が知っているロータリーは、まさに職業奉仕これこそがロータリーだと私も学んできましたし、今もそう思っております。

皆さん、どういうふうに考えますでしょうか。それぞれの考え方があります。まさに世界的な標準で考えて、これのほうのスッキリしているし分かりやすいという方もいるかもしれません。

先ほど申し上げた職業奉仕の考え方については、上位概念と下位概念ということを使って説明される方もいらっしゃるのですが、それも分かりにくいと思います。上位概念というのは職業倫理のことを言っていて、下位概念というのはRIが言っているまさに自分の職業スキルを活かした職業奉仕を言うのだそうですが、そういうように分けて考える考え方もあるのだそうですが、いや私はやっぱり職業奉仕というのは一つの人格、職業倫理を向上させていく運動で、それがロータリーなのだと思います。

そして、さらにそう考える仲間を増やしていくのがロータリーの「奉仕の理念」であり、その実践を行うのに必要なことのように思っております。時間が来たようようですので以上に致します。

またこの後で職業奉仕についてのシンポジウムがあるということですので、その時の皆さんのご質問、あるいはそれに対する地区ロータリー情報委員会や地区職業奉仕委員会の皆さんの回答を大変楽しみにしておりますので、よろしく願います。

どうもご清聴ありがとうございました。

## 世界のロータリーはどこへ行く？

～日本の職業奉仕論は、  
世界の一周先に行く～



2022～23年度 国際ロータリー第2790地区

# 第13グループ インターシティーティング

シンポジウム『職業奉仕を語ろう』



司会：谷口 貴光 ガバナー補佐幹事

# ガバナー補佐挨拶



国際ロータリー第2790地区  
2022-23年度  
第13グループ ガバナー補佐  
高橋 竜一

皆様、こんにちは。

5クラブ合同例会に引き続きまして、第13グループ インターシティミーティングにご出席頂きましてありがとうございます。

IMは、クラブ標準定款第10条第1節(d)(7)項に都市連合会として規定されているグループ内のクラブが集まって開かれる会合であり、グループ内の会員がクラブを越えて親睦を深め、ロータリーについて学び、知識を広めることを目的としています。

先程、IMに先立ちまして、小倉純夫ガバナーによる「職業奉仕」についての卓話をさせて頂きました。本日は、その卓話を基調講演といたしまして、IMテーマを「職業奉仕を語ろう」とし、シンポジウム形式で行います。

シンポジウム・パネラーとして、地区職業奉仕委員会 委員長 小野塚 雄 様（松戸東RC）、地区ロータリー情報委員会 委員長 山下 清俊様（市川東RC）、地区ロータリー情報委員会 委員 椎名 博信様（習志野RC）の3名の委員にお引き受け頂きました。地区委員の皆様には、快くパネラーをお引き受け頂き、そして、本日はお忙しい中お越し頂きまして、心より感謝申し上げます。

最近のRIに直接関係する様々な会合では、「職業奉仕」という言葉が聞かれなくなったということをお耳にしますが、今年度得居地区研修リーダーは、PETSでのご挨拶の中で「職業奉仕」を重視しているのは、世界の中で日本のロータリーだけではないことをいくつかの具体例を挙げて証明されています。

また、当時の得居ガバナーと時を同じくした日本から3人目のRI会長であった田中作治氏は、「職業奉仕は当たり前なこと、今更国際協議会で問題にし、議論するまでも無いからだ。」とはっきりと答え、「RIが職業奉仕を軽視していることはない。」と話されたそうです。ただ、悲しいことに、地区内の他グループにおいて、「職業奉仕」を軽視するような発言がされるのを耳にすることがあります。

しかし、大切なことは、私達の集うロータリークラブは、「事業活動に奉仕の理念を奨励し育てゆくこと」を「目的」として集っている団体である、つまり、ロータリーの目的は職業奉仕の推進にあるのだということをお忘れてはならないということです。

このことは、小倉ガバナーからもロータリーの目的である「奉仕の理念」とは、「職業奉仕の実践である」と1月の月信の中でも述べられております。

そして私たちは「日々の仕事を通して、自らの道徳的能力を高め、それを社会に反映させることによって、結果としてより良い社会を創造する」ことを責務と考えて努力していかなければならないと思います。

RIが最近提唱しております「中核的価値観」、「ビジョン声明」、「ロータリーの戦略的優先事項と目的」、「DEI」等は、非常に良く目にします。そして、言葉としては簡潔にまとめられています。しかし、私たちは、「奉仕の理念」や「職業奉仕」を知らずして、ロータリーの本質は理解できないのではないのでしょうか。

今回のIMでは、是非とも皆様に「職業奉仕」をさらに知るきっかけとなればと思ひましてこのシンポジウムを企画した次第です。

「職業奉仕には、到達点もなければ、終わりもない、最高善である」と得居パストガバナーは言うておられました。「職業奉仕」をどう実践していくかはロータリアンの永遠のテーマではないのでしょうか。

終わりにあたり、IMの準備にあたって頂きました蔵本一夫会長、高橋淑元幹事、そして谷口貴光ガバナー補佐幹事はじめとする松戸東RC会員の皆様に心より御礼を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。



# シンポジウム

## テーマ「職業奉仕を語ろう」



●コーディネーター●

国際ロータリー第2790地区

第13グループ

ガバナー補佐 高橋 竜一



●パネラー●

国際ロータリー第2790地区

ロータリー情報委員会 委員長

山下 清俊 様（市川東RC）



●パネラー●

国際ロータリー第2790地区

職業奉仕委員会 委員長

小野塚 雄 様（松戸東RC）



●パネラー●

国際ロータリー第2790地区

ロータリー情報委員会 委員

椎名 博信 様（習志野RC）

# ●シンポジウム・質疑応答●

## 【高橋竜一ガバナー補佐】

コーディネーターを務めさせていただきます。高橋です。

まずは、今一度パネラーの皆さまをご紹介いたします。



国際ロータリー第2790地区

職業奉仕委員会

委員長 小野塚 雄様（松戸東RC）

国際ロータリー第2790地区

ロータリー情報委員会

委員長 山下 清俊様（市川東RC）

国際ロータリー第2790地区

ロータリー情報委員会

委員 椎名 博信様（習志野RC）

進め方ですが、あらかじめ各クラブから2名の質問者を計10名決めて頂いておりますが、時間的に10問議論できるかはわかりませんので、松戸東の2問は時間があればお願いしたいと思っております。従いまして、順番は1人ずつ、松戸RC、松戸北RC、松戸中央RC、松戸西RCの順番で2周し、基本は8問とさせていただきます。

1周目は比較的会歴が浅い会員、ロータリー歴1年未満～5年の方、2周目は、会長エレクトや職業奉仕委員長など5年以上のロータリー歴の方です。

今回のシンポジウムでのパネラーの皆様の発言は、あくまでもパネラーの皆様自身の経験と実践に基づいたご意見、考え方を述べられるものです。また、今回のシンポジウムは、職業奉仕についての答えを出そうというものではありません。今回の内容を参考にして頂きましてそれぞれ個人で、クラブで、職業奉仕について改めて考えて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



お手元の次第の裏に2022年度手続き要覧の「標準ロータリークラブ定款」の第5条目的、と第6条

「5大奉仕部門」を掲載してございます。ご参考にしてください。

それでは始めたいと思いますが、まずは、パネラーの皆さまに自己紹介を簡単をお願いいたします。職業奉仕がテーマですので、ご職業にも簡単に触れて頂きたいと思っております。

## 【挨拶 国際ロータリー第2790地区

職業奉仕委員会 小野塚 雄 委員長

（松戸東RC）】

松戸東ロータリークラブの小野塚です。ご存知の方も沢山おられると思いますが、今更の自己紹介で非常に照れ臭いのですが、職業



は中華厨房ゆうえんを経営しております。今日の職業奉仕ですが、私がロータリーに入会して7、8年ぐらいいしてから、この職業奉仕ということを目にしまして、ロータリークラブの職業奉仕は私が商売をする上で勉強している「チェーンストア理論」と非常に似ており、この職業奉仕という哲学があるためにずっとロータリークラブを辞めずに在籍し続けているわけです。

その中で色々な仲間と知り合いそして親睦を深めることによって、私自身の世界が段々広がっていく、非常にそのロータリークラブというものは良い集団かなというふうに思います。これがただ単なる寄付団体やボランティア団体であれば、とっくに私はいなかったらと思う風に思っています。

先ほど小倉ガバナーがおっしゃられた「ロータリーの姿、職業奉仕を元にしたロータリーの姿」というものが私には非常に合っているような気がします。これからもよろしく願いいたします。職業分類は中華料理になります。



【挨拶 国際ロータリー第2790地区  
ロータリー情報委員会 山下 清俊 委員長  
(市川東RC)】

市川東ロータリークラブの山下でございます。私は今年の誕生日でちょうど70歳になります。ロータリー歴は15年となり、職業分類は写真工業です。

2003年に社長を引き継ぎ、2006年に父が亡くなりまして、その翌年2007年に入会しました。その当時会社は市川市にございまして、市川東ロータリークラブに入会したのですが、その後会社の本拠地が市原の方に移転しました。もともと工場が市原にあったため、毎週一回行くというのは大変な思いでした。

2010-11年度の時に地区からのお誘いを受けまして、地区委員を初めてやらせていただきました。当時職業奉仕委員会で土屋パストガバナーが職業奉仕委員長やられていた時です。松戸RCの中山様と一緒に職業奉仕について学ばせていただきました。

クラブでは2013-14年度に幹事、2021-22年度に会長を務めました。職業分類は先ほど申しました写真工業ですが、写真の現像機液を作っていました。現像機液は、今はほとんどありません。現在の売上全体の10%ぐらいになっており、現在では化学製品の受託をしています。

今年度情報委員会の委員長を仰せつかりましたが、この間の情報研修会の時も大変お世話になりありがとうございます。ここに出させていただくことが自分にとっては凄い勉強をする機会を頂いたということで、今も少しドキドキしております、そういう意味では本当にお招き頂きましてありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。



【挨拶 国際ロータリー第2790地区  
ロータリー情報委員会 椎名 博信 委員  
(習志野RC)】

習志野ロータリークラブの椎名でございます。習志野ロータリーは来年で60周年を迎える比較的历史のあるクラブではないかと思っております。私はそのクラブに32歳の時に入会し、昨日が誕生日で70歳になりました。こういった機会をありがたく頂戴をして人前で喋らさせて頂こうと思うのですが、慣れないことで皆様にご迷惑が掛かると思っていますが、ロータリーの精神を持ってお許しいただければ幸いです。

私は32歳で入会したので38年間ロータリアンです。会長も2回務めさせて頂きました。第12グループの佐倉中央ロータリークラブから橋岡さんがバナーに出られた時に「ロータリーの友」の地区代表委員を務めさせて頂きました。それまでは私も「ロータリーの友」を、しっかり読む機会がなかったのですが、1年半にわたりましてロータリーの友を改めて全部読みました。面白いし役に立つということがちゃんと読んでよくわかりました。皆様も何かの機会に興味のあるページだけでもご覧になると関心も興味も深くなるかなと思っております。宜しくお願いします。

私の職業分類はビル管理です。津田沼という街で商業ビルの経営をしております。私の会社はもう創業して102年目の会社でして、危ない危ない三代目なのですが、何とか納税を続けて頑張っております。宜しくお願いします。



**【質問1 松戸RC 掃部 圭佑 会員】**

私は昨年7月にロータリーに入会しました。職業分類は証券業です。本日、質問させて頂くにあたり、入会の時に頂いたロータリー



リー章典やロータリアンとは何かということ色々と調べて質問させていただこうと思いましたが、ロータリー章典の中に職業奉仕における会員の役割はロータリーの原則に沿って自らの行いと事業と職業を律すること、またクラブのプロジェクトに对应していくことであると記載がありました。職業を通じてお客様に喜んでいただくこと以外で職業奉仕が行われていると自分が実感できることはどのようなことがございますでしょうか。

**【回答 ロータリー情報委員会 山下 清俊 委員長】**

私自身としてはその職業奉仕ということでお客様の喜びとおっしゃいましたが、例えば日常の仕事の様々な判断をするときに使っている基準として私自身は「四つのテスト」を使っております。真実かどうか、みんなに公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるかどうか、これを自分の根幹として判断基準として持ち職業を行っているということは、そのまま職業奉仕に繋がるのではないかと実感しております。

事例は色々ありますが、情報不足で失敗してしまったこともあります。振り返ってみると、例えば真実かどうかで真実じゃない部分があったりして間違ってしまうということがあります。そういうことを後で振り返って反省するというのも含めてこの四つのテストが役に立っていると実感がございます。

それから職業奉仕の対象ということでは、お客様だけではなく、先ほどの「三方良し」のお話の通り、私も製造業でございますので社員、取引先や仕入先もありますので、そういう皆様に対してもどのような対応するかという時にも四つのテストを念頭に置きながら考えます。以上でございます。

**【回答 職業奉仕委員会 小野塚 雄 委員長】**

もちろん自分で商売をしている、仕事をしている以上は、誰のために何のためにということが重要です。

顧客のためにということが挙げられます。その他に職業奉仕と言いましたら我々ロータリアンでありロータリークラブに所属しているということは、やはりロータリーの目的をきちんと理解し、何ができるかということ自分で考えていくことが非常に大事だと思います。それは例えば何か具体的に何かをやるというよりは自分の中の仕事に対する意識を高い倫理観を持って仕事に臨む、そういう自分を作っていく、そういうことが職業奉仕の一部になるのだと思います。だから自分が色々な人と親睦を図っていく中で、ただ儲けようという人もいるでしょう、そうではなくて、もっと崇高な精神で自分の事業に臨んでいる人もいるでしょう。そういうところから勉強して自分が得たものを他人に伝え、他人のモラルを高めていくということも職業奉仕の一つだろうと思います。

**【回答 ロータリー情報委員会 椎名 博信 委員】**

私は38年前に入会したのですが、おそらく今は無くなってしまったと思うのですが、会員選考委員会が入会を誘う前に職場に来て様子を見に来るという行為が残っていました。当時私をフォローしてくれる「新米のフォローをする」担当も何人かいらっしゃってロータリーとはこういうことなのだと聞くことを聞かされておりました。私はその時に新しいフランチャイズビジネスを始めて3年目であり、比較的ビジネスも順調に過ごし、特にうちは高校生や大学生のアルバイトが多く居たため、その時に使ったものが四つのテストであったり、ロータリーのものの考え方でした。やはり不公平があってはいけないとか、えこひいきがあってはいけないとか、私の会社の中のルールをはっきりさせてそれを浸透させる、当時はマニュアルが大手をふって歩いていた時期であり、それをロータリーに入会して良いマニュアルを手に入れたなという感覚でやって参りました。そのようなことをしていたことが振り返ってみれば職業奉仕に繋がるのではないかと考えています。

## 【回答 松戸東RC 高橋 竜一 ガバナー補佐】

私も少し考えてみたのですが、やはり職業奉仕が実感できるというのは、お客様に喜んで貰えて、それによってお客様がリピートしてくれて、また来てくれて、また買ってくれる。そして、その目に見えない信用ができて、もちろん利益もでる。お客さんに感謝されて、また来てくれることが凄く嬉しいし、実感できることではないかと思えます。

## 【質問2 松戸北RC 平野 崇広 会員】

私は一昨年に入会させて頂いたものの昨年体を壊しまして、暫く休会させて頂いた時期もありましたので勉強不足を痛感しております。職業奉仕につきましても、私なりに勉強したものの理解ができてまだその本質に自分が近づいていないのではないかといつも思っております。今日聞きたいことは、職業奉仕の本質というものを分かり易い言葉でお聞かせ願えたら大変ありがたいと思えます。



## 【回答 ロータリー情報委員会 山下 清俊 委員長】

私自身はいわゆる奉仕の心を持って職業を営むというような理解で自分の心持ちのことをイメージします。ここで超私の奉仕と言うように自分のことを超越したということであると私利私欲ではなく、リターンを考えないということかと思えます。先ずはお客様の利益を考えることで、その次に自分で、それが結果的に世の中にとってよくなるということです。私は心の中でそういう風にイメージしているところがあります。私自身のイメージとしてあるのは、利益だけと言ってしまおうと金のことだけというふうには考えられません。けれども私自身はお客様に喜んでもらったこと、お客様の利益が出たことで喜んでもらったというその嬉しさ、それが自分の心にとってプラスになるので利益という言い方はおかしいのですが、それも含めて自分は広い意味での利益というふうには考えています。少し一般的ではないかもしれませんが、そのようなイメージを持っております。

## 【回答 職業奉仕委員会 小野塚 雄 委員長】

理念の本質ですから様々な見方があり、色々な人が様々なことを言うのだと思いますが、私は職業奉仕、世の中のためにとという言葉があります。やはり世の中のためにということを考えて自分の仕事を一生懸命やれば良いのではないかと思います。最初から儲けようと思ってやる人もいるでしょうし、初めて商売を始めた時は勤めているよりも自分でやったほうが儲かるんじゃないかと思って、そういう風な思いで始めるのでしょ。やっているうちにそれでは駄目だということに気づく人がいると思います。それは何が駄目なのかということ自分の為にやったらお客さんは来ないということに気が付くはずで。やはり世の中の為にやるということ自分のところにお客さんが来てくれるということに気が付くと思います。それはやはりロータリーの職業奉仕の文章や色々なものを読んでいると、大体そこに行き着くのです。「三方よし」とか、それから「商いは笑にして勝なり」とか、日本に古来からあるそういう商売の格言がありますが、これは一番大きなところだと思います。ロータリーの職業奉仕は、そのことを親睦を通じて人に知らしめていき、従業員、業界、ひいては世間全体のモラルを高めていくと言う所にあるのです。

## 【質問3 松戸西RC 石川 伸介 会員】

(※石川伸介会員が当日欠席されたため、高橋ガバナー補佐が代読)

私は昨年の7月に入会させていただきました。まだまだ入会してで未知なことも多く日々学ばせていただきながら活動させていただいております。今回はこのような質問する機会を頂きありがとうございます。職業奉仕とはどのような事でしょうか？また、職業奉仕と社会奉仕の違いを教えてください。今後自分がロータリアンとしてどのように職業奉仕をしていけば良いか教えてください。

**【回答 ロータリー情報委員会 椎名 博信 委員】**

職業奉仕はロータリアンが自分の職業の専門知識やスキルを活かして地域社会に貢献する事を目的にしています。自分の職業を通じて、ご利用いただけるお客様の要望に応え、社員やアルバイトの安定的な雇用を続け、商売をしている（させて頂いている）地域や業界の基盤向上に資する事を指していると思います。ロータリーで聞く事があるI serve（アイサーブ）の範疇にはいる奉仕活動です。



また、社会奉仕は地域社会や国際社会に貢献する奉仕活動であり、クラブ会員が何人も一緒に参加して活動しますが、自分たちの専門知識やスキルを活かして実行する事が多いので職業奉仕と明快な区別が付き難い事が有ります。

ロータリークラブは単なる寄付団体では有りませんので、自らの事業を発展させた成果やスキルを社会貢献や寄付などに活かしていく事が大切だと思います。

**【回答 ロータリー情報委員会 山下 清俊 委員長】**

職業奉仕は自らの職業の倫理性を高めることをイメージしています。そして、それが自分だけでなく、自分の職業の業界の他の方々にもその倫理性を高めることに繋げていくことが、職業奉仕と言えるのではないのでしょうか。

社会奉仕は、対象が社会ということですが、更に具体的には、地域や国内における人々に対して行う奉仕ということかと思えます。こちらは必ずしも自分が属する地域に限定することはなく、他の地域への奉仕活動もあるかと思えます。

職業奉仕をどう実践していくかについては、繰り返しになりますが、例えば私の場合、仕事上の判断をする場合に4つのテストをその判断基準として活用することで、実践できると考えています。

**【回答 松戸東RC 高橋 竜一 ガバナー補佐】**

職業奉仕は、受益者が、ロータリアン自身であり、受益者が他人である場合は基本的には社会奉仕と考

えますが、2016年に変更された標準ロータリークラブ定款 第6条の2によって、自己の職業を生かすようなクラブが開発



した奉仕活動は、広い意味では職業奉仕といえます。

新たに加えられた部分

- ①自己の職業上の手腕
- ②社会の問題やニーズに役立てるために
- ③クラブが開発したプロジェクトにこたえる  
ここがポイントだと思います。

しかし、職業奉仕、社会奉仕、青少年奉仕など区別が難しい場合は、各クラブによってその活動に即した奉仕活動とするのがよいのではないのでしょうか。

メインの委員会を決めて、他の委員会の共催という方法もあると思います。

奉仕に区別は無いという意見もあるようですが、奉仕活動をするときには一定の分類をし、どの委員会がメインとなるかを決めて、他の委員会の要素も含んでいるのであれば共催という形もあるのではなでしょうか。

また、先ほどI serveとWe serveの話しができました。1月の元RI理事松宮剛様のご講演の中で、ライオンズの本 mottoであるWe serveを比較するためにロータリーはI serveなどという言葉が出てきたのであって、We serveだとかI serveということではないとおっしゃっていました。

このI serve、We serveという言葉ですが、非公式な書類などでは時々見られますが、ロータリーの公式的な資料には見当たりません。

ロータリーにおいては、個人奉仕こそ本質的なものでありますが、I serveだからWe serveをやるべきではないとか、そういう話しではないのでは無いのでしょうか。

松宮さんが言われている奉仕の区別なくというのは、5大奉仕を英語ではFive Avenues of Serviceというように奉仕の仕方の違いはあれど、ロータリーは「奉仕の理念(Ideal of serve)」を求めるところは同じであるということと言われたいのではないのでしょうか？



これは得居PGからお聞きしたのですが、The Rotarian Ageelには、ポールハリスが、チェスペリーの話しで、「奉仕をもってロータリーの基本大道（Rotary's super highway）を構成する通路(lanes)であると考えている」といっています。

#### 【質問4 松戸西RC 吉田 健 会員】



職業飲食業をやっており、昨年11月に入会してまだちょっと職業奉仕というのは理解できていなのですが、飲食をやっている中で何が

できるかなと考えた時に友人が市川市の方で解体業兼飲食店を経営しており、その中で子育て世代とか共働き世代のために僕もやってみたいっていうのをどうやって広げていったらいいかなと考えております。これの活動のロータリーとしてできるかのどうか、また別のクラブの方々でもしこの取り組みに近いことをやっているのであればと知りたいと思いますので、是非お願いします。

#### 【回答 職業奉仕委員会 小野塚 雄 委員長】

1912年に今のロータリークラブの目的が制定されて、アーサー・シェルドンの努力によって、ロータリー活動の基本は、自分の職業を通じて奉仕であるというロータリーの根本原理が1912年に出来上がりました。これは職業奉仕というものは、ロータリアンひとりひとりが例会に出席して、みんなと仲良くして親睦を図っていく中で、その自分の職業や自分のモラルを高め、日常生活においてもロータリアンとしての意識を持って、仕事には真剣に取り組み、社員や業界、取引先、お客さんなどにもモラルの向上を推奨して行くのだということです。先程のお話しの中で、協賛企業に協賛してもらって奉仕してこれが本当か否か、お弁当百円で販売することについてそのロジックがよくわからないですが、1989年の決議の中に職業奉仕に関する声があり、その三番目に、自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること、と言うものがあります。したがって、これがもしかすると、自分の職業上の手腕を、社会のニーズである子育て世代や一人世代で困っている人達に、お弁当を百円で提供し

ているということになるのかどうなのか、これが継続してできるものかどうか、もし継続してやるとするとこれは非常に微妙な線かなと考えています。これももちろんクラブでやっていく場合には、広い意味では社会奉仕活動的になるのではないかととも思います。しかし、こういうその一人親世帯や子育て世代にお弁当を一回だけ配って終わりという、それは少しおかしいなあと思います。そうすると継続的にしていかななくてはならないのですが、継続的にそれを行っていくということは、ロータリーの職業奉仕や社会奉仕に照らし合わせて疑問はあります。この事業自体は、広い意味では「社会奉仕活動」ではないかと思う。しかし、ロータリーの活動は原則、単年度制であることを考えると、継続事業として行うのは、無理があるような気がします。松戸中央ロータリークラブでは子ども食堂というものを行っています。これが全く一緒だと思いませんけれども、自己の職業上の手腕を活かす目的で、クラブが主導になって行うのは、ご自分の職業を活かせるような活動です。言い方が少し悪いかもしれませんが、人からお金を貰って奉仕するのは職業奉仕ではないと思います。身銭を切って自分で百円で販売できるように、自分の商売で稼いで百円で販売するのであればわかりますが、協賛金を募ってお金を集めて、それで百円で販売するというのが奉仕活動に該当するのか疑問が残ります。

#### 【質問5 松戸RC 山田 達郎 会員】

松戸ロータリークラブの山田と申します。入会して13年ぐらいいになり、司法書士という職業分類であります。質問を書いて出



したのですが、今までのディスカッションで殆ど触れていますので質問を変更させていただきます。私も質問の前に色々調べたのですが、社会との関わりで企業がここ10数年で大きく変わってきたことはSDGsとか社会が良くなることに取り組むと言うことが企業に必要だということで、上場企業の方々の会社員であれば必ずSDGsのバッジを付けたりして、持続可能な開発目標を持ち始めたという時代であります。これをロータリー活動の中心に置いているクラブの活動な



どもあって、ホームページを見ると、職業奉仕も含めてロータリー活動で世の中を良くしていこう、職業を通じて良くしていこうと言うことで、正にSDGsであり、社会にどのように貢献して行くかということについて親和性があるということでロータリーに重ねている活動がホームページで見ると出てきます。このことについてどのように感じるのか是非一言だけいただければと思います。

#### 【回答 職業奉仕委員会 小野塚 雄 委員長】

SDGsを真正面に取り上げて、ロータリー運動の中のクラブの活動のきっかけとか考え方とか活動の切り口として取り上げているクラブがあるようです。これについてロータリーがSDGsという言葉でそれに呼応して行くということ、これが世界中が共通の目標にしているのだからロータリーもやって行きましょうという、これはロータリーとして様々な意見があると思います。



私自身の考えと致しましては、やはり今の世の中がどんどん変わってきているという中で、私たちロータリアンそしてロータリークラブの根本は変えてはいけなところはもちろんあるものの、今の世の中の動きを見据えた中で、どうやっていくかということを考え、新しい取り組みについて、世の中にそういうニーズがあるのだということで、それが人として、ロータリアンとして、クラブとして、納得することができれば、その段階になって改めて取り上げても全然問題は無いと思いますし、むしろそれが世の中の為になるのであれば、いいのだと私自身は思っています。個人的な意見で地球環境を良くしていかなくちやいけないうのは、これは人類の願いだと思います。そのことをSDGsにしてもそれから今ロータリーが盛んに言っているDEIにしても、自分の企業を守り日本国民われわれ日本人ですから日本人、また外国を相手に商売されている方もいるかもしれませんが、自分の対象顧客のためになるのであれば、また地域社のためになるのであれば、企業人としてロータリアンを超越して、そこに取り組むということは重要なのではないかと思います。

もう一つは、何でもかんでも欧米が良いというのはなく、日本の文化伝統があるのだから、そういうものもきちんと踏まえて物事を判断しなくてはならないのではないかと思います。日本には日本のロータリーがあつていいと、日本人の文化を大事にして日本のロータリーを行っていていいと思います。その中で今言われたSDGs持続可能で地球を良くしていこうということ、自分の企業の中に取り入れていくことかなというふうに思います。

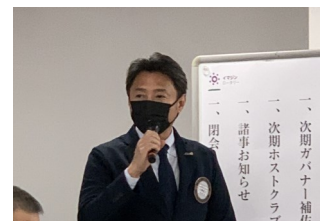
#### 【回答 ロータリー情報委員会 椎名 博信 委員】

少し違う観点かもしれませんが、私の会社はもう100年を超えているという話をしたのですが、私の会社の社訓の中に地域とともに発展するというものがあります。地域を置いてきぼりにして自分のとこだけ良くなろうとか、地域はいいのだけれど自分のとこがかえって駄目になる、地域を良くしながら自分の会社も良くなる、これはロータリーの中にも同じ考え方があると思います。その中でSDGsにしてもDEIにしても、これからロータリークラブやRIが取り組んでいくテーマではないかなと思います。

特にDEIに関しましては次年度新設する委員会があるとのことであり、今度皆さまのところにそのPRに関する情報が流れてくるのかなと思います。

#### 【質問6 松戸北RC 小澤 直之 会員】

松戸北ロータリークラブの小澤でございます。今回、私が用意した3点の質問の内2点について既に答えが出てしまっていますので、これは漠然とし過ぎていてお答え頂けるかどうか何とも言えませんが、職業と奉仕という言葉、これをつなげることに分かり易い言葉で頂けると有難いです。実はこれはある会員から質問された時に私自身が何も答えられなかったことであり、そこでどういう言葉で簡単に説明すれば良いのか、それを知りたいと思います。



## 【回答 ロータリー情報委員会 椎名 博信 委員】



今の世界がどんどん変わってきて我々の持っている価値観とか常識、色々と変化をしていますが、質問の主旨と違うのですが、例えば自分のところで働いてくれる従業員アルバイトの時給を上げること、それは職業奉仕なのだろうか、色々なことを考えます。今物価が上がっている中で、働いていただいている方も、所得が伸びないとこの物価高に対応ができないわけです。私の会社に対して会社と一緒に頑張っていこうとかあるいは5年だけ頑張っていこうとか色んな人が居ると思うのですが、そのためにはやはり働いてくれる人が満足する状況を作って行かないといけないと思っています。質問に対する答えになってなくて恐縮ですが、私はやはりこれから先は変化に対応しながらロータリアンとして行動したことが大切かなと思います。

## 【回答 職業奉仕委員会 小野塚 雄 委員長】

非常に悩ましいと思います。利益を上げないと会社の持続性がなくなります。では皆のためにだけやっていたら成り立つのか、成り立たない



です。或いは利益だけ追求する。おそらく私は利益だけを追求しては商売が成り立たないと思います。地域の人たちもいるし、それから従業員の人もいます。得た利益を再投資するというのはビジネスじゃないですが、得た利益を再投資して事業を拡大すること、役に立てるといことがビジネスの基本ですから、利益だけを追求することばかり考えると、結局あまり苦労しないで金儲けをということで犯罪になったりするのだと思います。だから、フィリピンで日本人4人が特殊詐欺で逮捕されたことはその最たるものだと思います。それからその実体経済と市場経済があって我々実体経済の中で商売をしています。株の投資それだけで莫大な利益を得るというものがあります。それはそれでいいかもしれませんが、ロータリアンとして色々とロータリー

のことを勉強している以上は、実体経済の中でその人の役に立って周りの人たちの役に立つ中で利益をどう出していけるかということを考えて商売に励むということが重要なのだと思います。きちんと成功できていけば自分のやっていることを人にも伝え、こうやって人のことを考えてやっていくという、ロータリーの本質で奉仕の理想を活かした仕事になっていくのではないかと思います。私は多く儲けてもないし、潰れそうになったことはあるけれども、それは投資をし過ぎというだけで、普通に商売をやったらきちんと回収して、出た利益をちゃんとそこに確保して行くことで、利益だけを追求したら下手なことを考えれば脱税を行ったり悪いことばかり行ったりしてしまうのではないかと思います。やはりきちんとした商売をやっていくということは利益の追求だけじゃなくお客さんや従業員取引先みんながよくなるという方法を考えてやっていくことが良いのではないかと思います。

## 【回答 松戸東RC 高橋 竜一 ガバナー補佐】

深川純一氏の公演資料にあったのですが、職業というのは、自分のお金を儲けるための手段。私たちが生きていくための所得を得る手段であり、これは「自分のためのもの」です。



一方、「奉仕」とは世のため人のためのものであって、すなわち自分以外の「人のためのもの」です。お金を儲けるということと、世のため人のために尽くすというものは違うベクトルのものです。その全く違うベクトルのものを一つにして、つまりロータリーの職業奉仕というのは、「職業を営むこと（お金を儲けること）が世のため人のためになる奉仕となる」と言っておられました。これがロータリーの特徴であって、ほかのボランティア団体と違うところだと私は理解しています。



### 【質問7 松戸中央RC

佐々木 恒司 会員】

松戸中央ロータリークラブの佐々木です。私も事前に提出致しました質問について、既に殆どの回答を頂いておりますので、質問を一つに絞って変えさせていただきます。職業奉仕をどういう形で活性化或いはその活動、目標を持った形でクラブ活動の中でどういう方向づけをしていけばいいのかアドバイス等を出来ればお願いしたいと思います。

### 【回答 ロータリー情報委員会 椎名 博信 委員】

職業奉仕も昔から言われているのは、良く解らなく難しいとずっと言われています。たまにこういう職業奉仕に関する勉強会があったときに余計混乱してしまうということもありまして、職業奉仕はロータリーにとって大切なことだから委員会を作っている、残している、或いはベテランの方をお願いしようということが、実は私どものクラブではよく見られます。私が思うのは、私が商売を始めて3年目にロータリーに入会をして、四つのテストなどのお話を伺ったときに、これは仕事に役に立つなと思いました。要するにロータリーが推奨している四つのテストを自分の会社で行うことによって、自分の会社は経営が安定するのではないかと売上が伸びるのではないかと、或いは利益が取れるのではないかと、そのように思いました。世界のロータリークラブができた100年以上前の話なのですが、互惠関係であった職業人が集まり、当時のシカゴというのは非常にあの無法地帯であったそうなので、その中で信頼できる仲間と情報交換をしながらお互いのビジネスを成功させていこうという流れがあったそうなのです。そこに相通じるところではないかなと思っております。ですから私の事業所にも四つのテストが掲げてあり、年に1～2回ぐらいですが社員に説明することもあるのですが、自分の会社に来ていただける業者さんとかあるいはあのお客様とかそういうことに対して四つのテストを実施することが最後は自分のところにプロセスとして戻ってくるという気がしております。またそれを信頼して、ずっと継続をしております。厳しい世の中でありましたが納税を続けて自分の企業として国に対してその

恩返しをしているという感覚があって、それはロータリーで勉強させて頂いているおかげだなとそのように思っています。

### 【質問8 松戸西RC 関口 貴之 会員】

松戸西ロータリークラブの関口でございます。職業分類はビルディング管理でございます。最後に1点だけご質問させていただきます。



ガバナー月信1月号の小野塚委員長のお言葉の中に「ロータリアンは、職業奉仕の理念を持ち、自分の職業を私的利益追求の手段ではなく、社会貢献性の高い企業を目指すという自覚をもって例会に集い、親睦の中に心を磨き、切磋琢磨することで職業倫理基準を高めていくものです」とありました。まさしく職業奉仕を凝縮した言葉であるとともに職業奉仕を実践することにより個人が得られた倫理基準の内容を同業者に伝え業界全体を高めることが出来れば、ゆくゆくは魅力あるクラブとして松戸西ロータリークラブの課題でもあります「会員増強」にもつながるのではないかと思いました。そこで質問ですがクラブとしてどのような例会プログラムがあるとより魅力的な職業奉仕を実践することができるのかを教授いただければ幸いです。

### 【回答 職業奉仕委員会 小野塚 雄 委員長】

私は、会員卓話は非常に重要だと思います。会員卓話で自分の職業について語ってもらおうというのはいいと思います。自分の会社の事、自分の仕事の事、その社会的意義、等々自分の会社を改めて考える機会にもなるだろうし、そのことを会員に報告することで、会員の皆にも我社の事を知ってもらう機会にもなる。こう言う機会を利用して、職業倫理を啓発するキッカケになったりもするのだと思います。先ほど、親睦と奉仕と言う事を言いましたが、親睦は例会出席が大前提です。では、例会に出席すれば親睦は深まるでしょうか。そんなことは無いと思います。例会で満遍なく会員全員と会話することなどありえないでしょう。

親睦と奉仕と言うことがありますが、では親睦





は例会出席が大前提なんです、例会に出席するだけで親睦を深めることが出来るのかということです。例えば30人40人が1度に会

したときに、1時間の中で全員とまんべんなく話をするにはおそらく不可能ではないですが、本気でやろうとしないとできないと思います。したがってクラブには委員会がありますから、その各委員長は委員会活動を活発にやる、ということが僕は非常に大事だと思っています。ある時期に、うちのクラブでも委員会活動を活発にやっていた時期があります。私が入会した頃は委員会活動って委員長一人でやっていました。私が勉強している勉強会の中でも、小集団活動があるのですが、色々な会社の中でも仲のいいグループがあるではないですか。私はタバコ吸うのですが、普通に例会をやっていて、喫煙所に行くときと例会の中で出なかった話や色々な話がタバコを吸う仲間の中に出てくるわけです。したがって親睦はなかなかいっぺんにはできないですが、小集団活動することによって、親睦が深まっていくと思います。よってロータリーの委員会は毎年毎年変わっていくわけですから、毎年毎年委員会メンバーが変わっていくわけで、3年か4年が経過すれば、もうみんな仲良しになってしまう、という現象が起こるのだと思います。合うとか合わないという問題はあってもいいかもしれませんが、大体みんな仲良くなるという、そういう中から自分が仕事の話や自分の現在の気持ちを話し合い、親睦を深めることによって、ではこういうことをクラブでやってみよう、という奉仕の機会が生まれたりして行くのだらうと思います。親睦が深まれば自分の仕事に対する考えや、現在の状況を打ち明けられたりするし、そのことで自分の職業倫理の向上が図られていく、というクラブにしていけば会員も増えていくのではないかなと思います。

#### 【回答 松戸東RC 高橋 竜一 ガバナー補佐】

やはり職業奉仕の話の聞いたり、クラブ協議会での研修に参加したりすることも勉強になると思いますが、結局は毎週の例会へ出席して、色々な委員会に配属されて、それで役を担って奉仕活動を通じて

親睦を図る、そういうことが自ら学んで切磋琢磨することによって職業倫理を高めていくということが職業奉仕にとっては重要なのではないかと私は思います。

#### 【最後に 松戸東RC 高橋 竜一 ガバナー補佐】

質問者の皆様、そしてパネラーの皆様ありがとうございました。今回のシンポジウムをするにあたりまして、パネラーの皆様には回答の担当を一応決めさせていただきましたけれども、私を含めて質問10問に対してすべての意見を持っていただいております。そういう意味で1番勉強になったのはパネラーの皆様かなと思っております。冒頭にも申し上げましたが今回のシンポジウムは職業奉仕についての答えを出そうということではございません。今回のシンポジウムをきっかけにさせていただいて、職業奉仕について個人でそしてクラブに持ち帰って、改めて考えていただきたいと思っております。

最後によく聞かれる言葉だと思いますがポールハリスの言葉をご紹介します。

「ロータリーは決して宗教でもなければその代用物でもない、それは古くより存在する道徳観念の現代生活における特に実業職業生活における実践に他ならない」

以上をもちましてテーマ「職業奉仕を語ろう」のシンポジウムを終了致します。ありがとうございました。





# 総 評



## 国際ロータリー第2790地区 2022-23年度 ガバナー 小倉 純夫

皆さん、長時間のシンポジウムお疲れ様でございます。私も非常に勉強になりました。質問者の質問も非常に的確な質問であったと思いますし、これに対するパネラーの回答も非常に的を得た的確な回答であったと思います。これによって、皆さんの職業奉仕に対する考え方が大変深まったのではないかなと思います。その中で非常に良いなと思ったのは、やはり職業奉仕という中で利益と奉仕というものは先ほどお話がありましたとおり、対立するものであり、ベクトルが違うのではないかというお話もありました。我々は職業人であり報酬を得るために活動しているわけですが、ここで言う報酬というのは適正な利益のことであり、我々が不当に利益を得るのではなくて適正な利益を得てそれを社会に還元して行く、それが商売繁盛の秘訣なのだと思います。東日本大震災の時に、思い起こしていただくと、様々なものが非常に高騰しました。あの時にやはりほとんどの日本の会社の価格は適正だったのです。不当に儲けようと思えばいくらでも儲けることが出来たのかもしれませんが、しかし、そのような時に不当に儲けずに適正な利益を得ていた会社が多く、日本の社会では自分たちの良心で自己を律している人が多いのではないかと思います。私は「職業奉仕とは何ですか？」とお尋ねした時に佐藤千寿先生は、「自分の良心に従って職業を営んでいくことが職業奉仕なのです」、こういう風に仰っていました。正にその通りだと思っています。

先ほど、お話があった中で私も大変興味を持ってお話を伺ったのは、「職業奉仕の喜びを実感するのはどのような時ですか？」という質問です。これはそれぞれの人によって違うのだらうと思いますし、感動や自分がこれをやって良かったなという気持ちは人によって違うかもしれません。職業奉仕を考えるとときには、全体として考え、また四つのテストなどを考えながら行動するというところをご説明いただきました。

しかし、実は公式訪問の時に私と同じ弁護士なのですが同業者の方から「弁護士にとって四つのテストは全く役立ちませんよね」と質問を受けました。その方は弁護士になって10年ぐらいだと思うのですが、「弁護士にとって四つのテストなんてむしろあれは邪魔になる」というお話がありました。なぜかというところ「弁護士は依頼者の利益のために働いているのだから、皆のためになるかどうか、なんてことを言っていたら自分の職業にならないのではないか」というご質問でした。確かにそういう面もあるのですが、実は私も問題（紛争）の解決の時に全体の利益はどこにあるのか、どういう落とし処が一番いい解決になるのかということを考えています。

皆のためになるかどうかというものは一つの基準になると私は答えました。色々な考え方があるのだなと思います。

まさに職業というものを考えるときに、職業をどういう形で社会に還元し、利益をもたらし貢献していくのか非常に難しいと思います。改めて皆さんと考えて、これから自分の考えをさらに深めたいと思います。そういった意味で今日のこのシンポジウムは大変有意義なものとなり、非常に素晴らしい成果が挙げられたのではないかなと思います。パネラーの皆さんどうもご苦労様でした。そして、質問者の

方も大変お疲れ様でした。

それぞれの職業は、その活動で社会に利益をもたらしていますので単純に経済的な利益だけではなくて、色々な意味で自分にそれが返ってくる、まさに私は

「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」これは日本でも昔からあるのですが、情けは人のためにならず、これがまさにそれなのだろうと思います。

小野塚さんがおっしゃったように、日本には昔から「三方よし」や「情けは人の為ならず」、こういった良い言葉があるわけです。これが日本のロータリーだと私は思っています。これは職業奉仕を端的に表す言葉であり、情けは人の為ならず、他の人のために奉仕することによって、それが最後には自分の利益のためになっているのだと、そういう考えで職業奉仕を考えていただければ良いと思います。ありがとうございました。

# 直前ガバナー補佐挨拶



## 国際ロータリー第2790地区 2021-22年度 第13グループ ガバナー補佐 織田 信幸

昨年、梶原ガバナー年度に第13グループガバナー補佐を務めさせて頂きました松戸ロータリークラブの織田でございます。昨年のIMは例会場に関係者だけを集めて、Zoomとの併用で開催させて頂きました。内容は小倉ガバナー年度に向け小倉ガバナーから地区運営方針について、第2部では各クラブの代表がそれぞれのクラブの奉仕活動について発表していただきましたが、昨年と比較すると本日のIM内容はとてもレベルが高く素晴らしかったと思います、さすが高橋ガバナー補佐の手腕ではないかと感じる次第です。併せて今年度小倉ガバナーの地区運営方針・コンセプトを具現化した内容の濃いIMであったと思います。昨年は梶原さん（千葉RC）がガバナーを務めました。思い返すと、梶原ガバナー年度がスタートする前のエレクトの時期に地区ではグループ編成やガバナー補佐のガバナー指名などで地区内が混乱しました。その辺について皆様、記憶に残っているかどうかわかりませんが数多くのクラブから反対の意見が上がり、混乱する中、私がガバナー補佐に指名されました。当時はもしかすると、流山の2クラブと鎌ヶ谷クラブと松戸の5クラブと一緒に8クラブでグループを形成する可能性があったわけではありますが、これはつい最近の出来事であります。しかし、この辺の諸事情をグループ内の皆様に聞くと、結構温度差があって殆ど情報を知らない方が居るなど、意外と第13グループでは風化してしまった感があります。

そういう意味ではIMという場で5クラブが集い様々な情報交換や、交流をすることでグループ内の結束を図ったり、地区内の動きや状況を知ることも大事なのではないかということを感じさせていただきました。

今年度は小倉ガバナーのもと地区幹事長を務めておりますが、あと5ヶ月、13グループの皆さまのご協力をお願いしたいと思います。

最後になりますが本日、直前ガバナー補佐として、記念品を頂戴いたしました事。誠にありがとうございます。次年度の鶴沢ガバナー年度にはガバナー補佐として松戸北クラブの鈴木悦郎さんが出られるわけですがぜひ頑張ってください。そして今年度の高橋竜一ガバナー補佐さんには残りの期間、小倉ガバナーを支えて頂きますことをお願い申し上げ、私の感謝の言葉とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

# 次期ガバナー補佐挨拶



## 国際ロータリー第2790地区 2023-24年度 第13グループ ガバナー補佐予定者 鈴木 悦朗

皆さんこんにちは。次年度第2790地区13Gガバナー補佐の大役を仰せつかりました松戸北ロータリークラブの鈴木悦朗です。

本日は、久しぶりの5クラブ合同例会で、130名の当地区ロータリアンの皆様が集まったとお聞きいたしました。

合同例会では、小倉純夫ガバナーより「職業奉仕について」の歴史や哲学、RI、日本のさまざまな職業奉仕の解釈に関する概要の卓話を頂戴いたしました。13時40分からのインターシティミーティングでは、高橋竜一ガバナー補佐の進行のもと、「職業奉仕を語ろう」というテーマで、地区ロータリー情報委員会委員長山下清俊様（市川東RC）、地区職業奉仕委員長の小野塚雄様（松戸東RC）、地区情報委員会委員椎名博信様（習志野RC）のお三方のパネラーが、各クラブの新人、会長エレクトそれぞれの皆様から職業奉仕の実践に関する質問に、さまざまな視点に立ってお答えいただき、大変中身の濃い有意義な研修でありました。

次年度も先輩たちからのバトンを引き継いで、5クラブのメンバーの皆様が大勢集う素晴らしい研修の機会と親睦交流の機会を5クラブ会長・幹事の皆様と相談しながら築いてゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



# 次期ホストクラブ会長挨拶



## 松戸北ロータリークラブ 会長エレクト 小澤 直之

次年度松戸北ロータリークラブの会長を仰せつかりました小澤直之でございます。宜しく申し上げます。これを機にこの13グループの皆様とさらに親睦を一層深めて皆様と良い年度を過ごしたいと思っておりますので、是非ともよろしく願いいたします。

先程ご本人からご挨拶があった通り、当クラブから鈴木悦朗会員をガバナー補佐として選出し、13グループのために頑張ってくださいとなりました。よって、次年度は松戸北クラブがホストクラブとしての立ち位置になりますが、5年前のホストクラブの年度で私が幹事を務めさせていただいた時期がありました。当時はまだ2年目だったため、右も左もわからずに言われたことだけを指示のもとに動いて実行しただけだったのですが、次年度は会長としてホストクラブの運営をしていくことに若干の不安が残っております。皆様のお力を借りて頑張っていきたいと思っております。年度が近づくにしたがって少し憂鬱な気分になる時期もあったのですが、最近は次年度ガバナー補佐の鈴木さんが計画的に一生懸命動いて、そのような姿を見て、なんとなくスイッチが入ってきたと思います。そのようなガバナー補佐を支えつつ、又北クラブもしっかりと運営して行きたいと思っております。

もちろん各行事も大切ではありますが他クラブの皆さんと共同で奉仕やイベントごとの時には遊びで共有するのも親睦の一環だと思いますので、そのような形で盛り上がっていきたいと思っております。先ほどの職業奉仕について、正直100%理解できてない人も多くいると思います。私自身、会長になるにあたって色々読み物とかホームページとか学習をしましたが、やはりどうしてもものになっておりません。そのような中でもう次年度も近くまで迫ってきているので、同年度の会長幹事さん、皆様にご教授いただき、吸収して行きたいと思っております。次年度の会長幹事さんにぜひともよろしくお願ひ、そしてこれからごクラブの合同例会や地区の集まり、またゴルフコンペ等のイベント事をホストクラブとして盛り上げていきたいと思っておりますので、皆様ご協力のほどよろしくお願ひいたします。簡単でございますが以上をもって私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



イマジン  
ロータリー





制作・発行/ 2023年4月 松戸東ロータリークラブ  
〒271-0092 千葉県松戸市松戸1281 ユニティビル2F  
TEL・FAX: 047-367-2227 E-mail: matsudohigashi-r@nifty.com